

本年は地温も気温と同様に高温で推移しており、露地の萌芽が早まっております。
しかし、最低気温では例年並みとなる日もあり、露地を中心に凍霜害の被害が発生しております。
当面下記の点に注意し、的確な栽培管理と収穫作業をすすめてください。

1. 出荷状況・等級別割合

累計 10,000 束到達時

年度	初出荷	到達日	累計束数	2L (%)	L (%)	M (%)	B太 (%)	B細 (%)	L級以上 (%)
令和3年	3月13日	4月3日	11,633	9.0	64.4	13.9	3.9	8.8	73.4
令和2年	3月22日	4月7日	11,020	7.2	64.7	14.6	5.4	8.1	71.9
平成31年	3月23日	4月5日	10,667	8.3	68.2	13.4	3.4	6.7	76.5
平成30年	3月21日	4月3日	12,864	13.3	60.3	13.5	6.4	6.5	73.6

◇本年の特徴

- ①3/13より初出荷となった。(昨年は3/22、一昨年は3/23)
- ②2L級は過去4年間で2番目に高い、L級は過去4年間で2番目に低い。
- ③M級は過去4年間で2番目に高い。
- ④栽培年数や茎枯病等の病害、管理の良否等による圃場間の差大きい。

平均 気温	2月		3月		
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
R3年	0.7	1.7	4.4	5.7	9.0
平年差	+1.7	+2.4	+2.1	+2.4	+4.5
降水量	44.5	6.5	23.5	6.0	27.0

◇本年の対応： ハウス作型では、ハウス内の乾燥が見られます。乾燥により穂先のヤケが多いように感じられます。
乾燥状態が続くと、穂先の開きが早まりますのでかん水を実施しましょう。

また、穂先の開きやM級比率の増加など株の消耗サインが出てきたら、圃場に合わせた適期な収穫打ち切りをしましょう。

特に、昨年茎枯病の被害で早期枯れあがりした圃場は早めに立茎させ、株の消耗を抑えましょう。

2. 灌水の実施

☆ハウス作型は特に乾燥しています 晴天の午前10時～午後2時の間に行いましょう。

寒い時間帯に行うとアスパラの表面に紫色斑点の発生が心配されます。灌水は、うね上点滴かん水がより効果的です。

◇灌水の効果

- | | |
|--------------|------------------------|
| ①収量が上がる。 | ②開きや曲がりが少なくなり、品質が向上する。 |
| ③高温障害・凍霜害の軽減 | ④春肥の肥効が早まり、効果的になる。 |

3. 気象災害対策

- ・生育が早まっている露地では特に凍霜等による被害が心配されます。
- ・可能な限りの対策（保温、小トンネル、二重被覆の実施等）を講じて、被害を最小限に食い止めましょう。

◇凍霜害が発生したら（裏面参照）

- ①水浸状になったもの以外は全刈りしないで、次の萌芽を確認するまでそのままにしておく。(全刈りすると次の萌芽が遅れる傾向があります) なお、被害程度が軽く出荷可能なものは正常なものと区分けして出荷してください。
- ②露地の凍霜害対策として、告知放送により早取りの特別指令（夕方6:00～6:30頃）が出た場合は、特別規格で収穫・出荷してください。

4. 収穫中の品質管理

症状	原因	症状	原因
穂先の腐敗	・生育中の高温（35℃以上で発生、乾燥状態程被害大）灰色カビ病	・曲がり茎の発生、茎の裂傷	・立枯病、障害物による損傷、養分不足 ・土壌水分の急激な変化、立枯病
穂先の早期開張 首部凍害	・高温乾燥、養分不足 ・気温-1℃以下で発生	・切り口の穴あき、茎の食害 ・穂先の食害	・ナメクジ、ネズミ、モグラ、ヨトウムシ ・ジュウシホシクビナガハムシ